

社会政策学会 Newsletter

◇学会本部 法政大学大学院公共政策研究科 禹宗祐研究室
URL : <http://jasps.org> TEL : 03-6457-5953 E-mail : jongwon.woo.56@hosei.ac.jp
◇編集・発行 禹宗祐 (代表幹事) 首藤若菜・禿あや美 (Newsletter 担当幹事) 熊沢透 (事務局長)
◇事務センター 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2丁目 39-2 大住ビル 401
㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 社会政策学会事務センター
TEL : 03-5981-9824 FAX : 03-5981-9852 E-mail : g048jasps-support@ml.gakkai.ne.jp

【目次】

1. 第 147 回 (2023 年度秋季) 大会開催にあたって
2. 役員選挙のお知らせ
3. 研究者育成フォーラム報告
4. 地域部会活動報告
5. 2023-2024 年期幹事会報告
6. 承認された新入会員

1. 第 147 回 (2023 年度秋季) 大会開催にあたって

10月7・8日、第147回(2023年度秋季)大会を立命館大学の京都衣笠キャンパスで開催します。当初は11月開催を想定していたのですが、補講・入試・学園祭などとのバッティングを避けざるをえず、結果的に三連休の土日開催となりました。他学会との日程調整や宿泊手配などでご迷惑をおかけした皆さまには、まことに申し訳ないです。

大会プログラム冒頭の挨拶文にも記したように、立命館大学では過去5回大会が開催されていて、初めての開催は第4回大会(1951年)に遡ります。このとき以来、本学での大会は日本の労働運動、労働問題、地方自治、福祉国家などのテーマで開催されてきました。現在でも本学にはこれらの分野の研究者が多く在籍しており、社会政策分野の貴重な研究蓄積が引き継がれてきたことを改めて認識する機会となりました。

大会の会場については、学而館という建物に受付を置き、分科会はそちらで開催します。初日の総会、懇親会、2日目の共通論題、両日の委員会等は別の建物になりますので、プログラムに掲載したキャンパス・マップをご参

照ください。バスでおこしの際は、「立命館大学前」バス停から北門(正門)、ないしは「衣笠校前」バス停から平野神社前を西進し、東門にアクセスしていただくこととなります。キャンパス周辺には等持院をはじめ、金閣寺、龍安寺、仁和寺、北野天満宮などの寺社仏閣が多く立地していますので、京都らしいキャンパスの雰囲気を楽しんでいただければと思っています。

懇親会はキャンパス内にて実施します。学会の醍醐味は、最新の研究成果に触れることとともに、他研究機関・他分野の研究者と知り合い、face to faceで議論・雑談できることにあると思っています。この大会で実りある議論、対話、雑談が行われ、新たな交流がとりわけ若い研究者の皆さんの次のステップに繋がることを祈念しています。(第147回大会実行委員長 櫻井純理)

2. 役員選挙のお知らせ

今年は、学会役員選挙が行われます。今回の選挙では、2024年春季大会にて開催される総会から2026年春季大会にて開催される総会までを任期として、本会の重要事項を審議する幹事と会計監査を選出します。その選挙を実施するため、幹事会から次の5名が選挙管理委員に委嘱されました(「役員選挙に関する規程」第3条)。

東北・北海道ブロック	熊沢 由美
関東・甲信越ブロック	永田 瞬
東海ブロック	五十畑浩平
関西・北陸ブロック	瀬野 陸見
九州・中国四国ブロック	三好 禎之

上記5名の互選により熊沢由美を選挙管理委員長に

選出し、選挙管理委員会は選挙日程と選挙に関する手続きを以下のように決定しました。

1) 選挙公示日

2023年9月7日(木)

2) 選挙の方法

有権者の資格は、前回と同様の基準による扱いとする。すなわち「2021年度までに入会されている会員については2020年度までの会費が納入されていること、2022年度以降に入会された会員については入会年度の会費が納入されていること」とする。

選挙管理委員会は、選挙公示に際し、有権者名簿、推薦文等の関係書類を全有権者に公開する。

投票は、有権者によるオンライン投票によって行い、投票の締め切り日時を2023年9月28日(木)17時とする。

3) 開票日・開票場所

2023年9月29日(金)に、本学会の事務センターがある「(株)ガリレオ」にて開票する。

4) 選挙結果の発表

2023年10月7日(土)・8日(日)に開催される社会政策学会第147回(2023年度秋季、会場：立命館大学衣笠キャンパス)大会で報告し、大会終了後に発行するニューズレターに掲載する。

5) 役員を選出に関する推薦文

「役員選挙に関する規程」第7条により、役員選出のために会員を推薦することを希望する会員は、以下の要領で推薦文を全有権者に配布することができる。

(1) 賛同する会員5名以上の氏名を含む推薦文(5名以上の氏名を含めて600字以内)のテキストファイルを8月24日(木)17時までに、kumazawa@mail.tohoku-gakuin.ac.jp(熊沢由美)宛にE-mailで送る。(※発信者は、推薦文に「賛同する会員」として記入した推薦者(全員)のアドレスをccに入れて発信してください。)

(2) 選挙管理委員会は、推薦文を全有権者に公開する。

6) 地方ブロックの所属

(1) 「社会政策学会会則」第43条の規定によれば、会員は主な勤務先または通学先の所在地、それが無い場合は居住地によって地方部に所属する。被選挙人名簿は、2023年7月31日時点で学会に届けられている勤務地等に則して作成する。

(2) 「社会政策学会会則」第43条によれば、海外在

住者はその所属する地方部会を選択し代表幹事に届け出た時、その地方部に所属する。届け出のない海外在住者は、地方ブロックに所属しない会員として取り扱う。地方ブロックに所属しない会員は、幹事としての被選挙権を有しない。なお、選挙権および会計監査としての被選挙権は有する。

7) 幹事・会計監査の被選挙権を有しない会員

(1) 「社会政策学会会則」第10条の規定によれば、永年会員は、幹事および会計監査の被選挙権を有しない(今年度は、永年会員制度の導入年度であるゆえ、経過措置として、2023年7月31日時点で同意された永年会員を本項の対象とする)。

(2) 「社会政策学会会則」第14条の規定によれば、幹事は、連続3期を限度としている。

(3) 「社会政策学会会則」第18条の規定によれば、会計監査は、連続3期を限度としている。

(4) 「社会政策学会会則」第24条の規定によれば、顧問は、幹事および会計監査の被選挙権を有せず、また、兼務することができない。

役員選挙は、会員の意思を学会運営に反映させることのできる最も重要かつ基本的な機会です。積極的なご参画をお願いいたします。

(選挙管理委員長 熊沢由美)

3. 研究者育成フォーラム報告

研究者育成フォーラムは今期幹事会の重点事業の一つとして、2020年7月に立ち上げられました。小尾晴美(中央大学)、北井万裕子(松山大学)、朱珉(千葉商科大学)、原田玄機(高崎経済大学)、近間由幸(鹿児島県立大学)、三家本里実(福島大学)、瀬野陸見(阪南大学)を世話人として、運営されています。2020年10月から2023年7月までの期間で、10回の定例研究会、2回の茶話会を開催しました。定例研究会では学位論文につながる研究報告や、研究の進め方などの意見交換の場となっています。2023年度中に、あと3回程度の研究会を開催する予定です。どなたでもご参加できますので、関心のある方はぜひご参加ください。

また、2023年6月17日には、初めての試みとして修論フォーラムを開催しました。4つの分科会を設置し、一つの分科会で20~25名、全体で70人弱の参加とな

りました。

研究会の情報等は、Facebookの公開グループページ(<https://www.facebook.com/groups/2040117472789142>)で案内しています。2023年8月現在、登録者は149名です。公開グループページでは定期的に学会関連情報の告知もしているので、お気軽にご登録ください。また、グループページ、研究会とも非会員でも参加できる形にしておりますので、学会員ではない方でも、社会政策研究に関心のある方にお声がけください。ご助言やご意見、何かお気づきの等があれば、世話人までお知らせください。

・2021-22年度の研究会等の実施状況
(すべてZoomオンライン)

第9回：12月11日(日)14時～16時

話題提供者：

小野塚知二(東京大学大学院)「社会政策学における
独創性—方法的概念の整理と自覚」

申し込み人数：51人

第10回：3月19日(日)14時～16時

話題提供者：

坂井晃介「どこで何をどのように報告すれば良い(良かった)のか—国際学会の経験と試行錯誤の記録」

渡部あさみ「国際学会と私の研究生生活—院生時代～
これまでの教員生活を振り返って」(小尾晴美)

4. 地域部会活動報告

・関西部会

第87回(2022年度)社会政策学会関西部会

日時：2022年11月26日(土)10時～16時30分

開催方法：対面とZoomによるハイブリッド形式

開催場所：大阪経済大学 B32教室

午前の部：自由論題(10時～12時)

第1報告 竹田次郎(大阪経済法科大学准教授)

「米国IT関連専門職の就活(面接) 指南書を通じて
みた、彼(女)らの仕事の態様」

第2報告 大村和正(立命館大学授業担当講師)

「新しい若者の社会的包摂の可能性—中小企業にお

けるアクティブ・インクルージョン」

午後の部：共通論題(13時～16時30分)

報告4本、途中休憩、全体討論

「社会政策の政策評価—埋橋孝文編著『福祉政策研究入門(第1巻・第2巻)』に基づいて」

第1報告 埋橋孝文(同志社大学名誉教授)

総論(1巻序章「福祉の政策評価をどう進めるべきか」)+9章「子どもの貧困対策の指標を考える」+
2巻1章「日本における社会保障制度の所得再分配機能」

第2報告 李宣英(韓国・江陵原州大学助教授)

1巻5章「介護サービスの質の評価をめぐる近年の議論と課題」+3章「介護人材確保をめぐる政策の課題」+4章「介護サービスの質の評価」

第3報告 廣野俊輔(同志社大学准教授)

2巻3章「なぜ評価に目が向かないのか—障害福祉計画に関する問題提起」+2章「サービス供給モデルの特性に基づく政策評価の試み」

第4報告 金成垣(東京大学准教授)

2巻6章「社会保障制度改革の政策的文脈—ベーシックインカムをめぐる韓国の経験と政策論への示唆」+7章「ソウル市青年ベーシックインカムの政策実験」

2022年度は3年ぶりに新型コロナ以前と同様に自由論題と共通論題の同時開催、および対面開催を再開しました。なお感染防止への配慮および他地域部会との交流促進の観点から、オンラインによる参加も実施しました。対面参加18名、オンラインによる参加14名の合計32名の参加がありました。オンラインでは他地域部会から6名が参加されました。2023年度も前年度と同様の方式での開催を予定しています。(居神 浩)

・東海部会

東海部会は、下記の要領で開催されました。

第24回研究会

日時 2023年2月26日(日)13時～17時

会場 Zoom ミーティング

1) 東海部会打ち合わせ

2) ご報告

司会 渡邊幸良(同朋大学)

(1) 荒井和樹 (中京学院大学短期大学部)
「繁華街で対話と交流を目的に活動する慈善型 NPO
運営に関する研究」

(2) 武内真美子 (愛知学院大学)
「乳がんと婦人科がんサバイバーの就業選択・労働時
間・年収」 (渡邊幸良)

・九州部会

2022 年度は研究会を開催することができなかった。
2023 年度に対面での研究会を開催できるように準備を
進めたい。 (久本貴志)

・北海道部会

昨年度は部会を開催できなかったため、活動報告とし
て記載すべき事項はございません。 (上原慎一)

5. 2023-2024 年 期幹事会報告

第 6 回幹事会

日時：2023 年 4 月 21 日 (金) 19 時

会場：オンライン

議事録

出席：禹宗杭・石井まこと・伊藤大一・岩永理恵・垣
田裕介・金井郁・上村泰裕・禿あや美・金成垣・
白瀬由美香・菅沼隆・田中弘美・所道彦・引馬知子・
水野有香・百瀬優・森詩恵・森周子・熊沢透 19 名
欠席：阿部彩・小尾晴美・金子良事・首藤若菜・田
中聡子・藤原千沙・栢田大知彦・松本伊智朗・山村
りつ 9 名

議題：

先議① 学会誌編集委員会

・第 15 巻の編集進捗状況。

ミネルヴァとの契約更改における注意点について。更
新のタイミングは夏休み明けくらいか (代表幹事)。

査読専門委員の委嘱方法について。リストを編集委
員会で作成し、幹事会で承認を得るという方法で行う。
本日の確認事項とする。

付：「締切時期」と掲載号がどれになるかの関係につ
いて整理を要するという問題提起があった。

1) 新入会員の承認

16 名の新入会員を承認。別項に一覧掲載。

2022 年度末での退会 3 名を確認。

2022 年度末での会費滞納による退会 (除籍) 者
13 名を確認。

2) 会員名簿検索システムについて

会員への通知文案について。会員情報管理システム
を学会として設定方法について、「利用制限」をかけ
るかどうか、どのようにかけるか。会費未納段階で掲
載しない、閲覧できない、など。

・「会費未納」状態での「利用制限」はしない。

・専門部会は掲載しない。一定の利便性はあるが「会
員 ID」は掲載しない。

・全データを毎年 4 月 1 日時点で pdf 化し、記録とし
て保存。

3) 春季大会の準備について

菅沼実行委員長から——プログラム発送は 5 月 8 日
になる。5 月 10 日～5 月 24 日にオンライン参加登録。

会場確保で苦勞したのでプログラムに工夫がある。
懇親会は 2 会場に分かれる。参加者は会場を選べな
い、など。

・金曜日の幹事会の後、総会資料を印刷という方針。

4) 各種委員会報告・審議

② 春季大会企画委員会

進捗報告。

③ 秋季大会企画委員会

10 月 7・8 日、立命館大学衣笠キャンパスで開催決定。

④ 広報委員会

学会 HP 日本語サイトのリニューアル。

⑤ 国際交流委員会

国際学会の助成制度、4 名について進行中。

⑥ 社会政策関連学会協議会

2023 年 3 月 25 日のシンポジウムの開催報告。

⑦ 日本経済学会連合

特になし。

5) 各担当報告・審議

① 若手研究者支援担当

・社会政策学会修論フォーラム 2023 年 6 月 17 日に
8 名の申込。準備の進捗状況の報告。

・若手研究者優秀賞の選考について。自由論題 11 本
を対象に選考。

・選考委員の選任にあたって、重任は避けるが再任は
妨げない。

② 大会調整担当

・前回幹事会対象アンケート以後、引き続き検討中。

- ③地方部会活性化担当
特になし。
- ④専門部会活性化担当
 - ・専門部会紹介ページの完成と、会員向け一斉メールでの通知
 - ・専門部会世話人への連絡、専門部会の現勢の調査。
- ⑤学会誌刊行形態最適化担当
 - ・特になし
- 6) 次回幹事会の日程
 - ・次回大会の金曜日、13時。
- 7) その他
 - ・金成垣さん：日本東アジア社会政策専門部会の名称変更について「アジア部会」案で。(1) 特定地域を対象とした部会は前例がないとはいえ、アジア地域の社会政策関連テーマを包括的に扱いたい。(2) これまでの名称だと国際交流の場面で部会の英語名称が長い。
 - ・「アジア部会」とすることを幹事会として確認。
 - ・熊沢：「社会政策学会表彰規程」に関する細則 2 上限 4 万円を 6 万円とする。次回幹事会に「細則」の改正文言を用意する。(熊沢 透)

第 7 回幹事会

日時：2023 年 6 月 2 日(金)

会場：立教大学 12 号館会議室、対面+オンライン
議事録

出席：禹宗杭・阿部彩・石井まこと・岩永理恵・金成垣・垣田裕介・白瀬由美香・菅沼隆・田中聡子・田中弘美・引馬知子・藤原千沙・百瀬優・山村りつ・熊沢透
オンライン出席：禿あや美・水野有香・森詩恵

欠席：伊藤大一・小尾晴美・金井郁・金子良事・上村泰裕・首藤若菜・所道彦・柘田大知彦・森周子・松本伊智朗

議題

- 1) 学会賞選考委員会の報告
松本委員長に代わり副委員長の馬場会員が選考経過と選考結果を報告。
- 2) 新入会員の承認
10 名の入会を承認。そのほか、2 名の会費割引を確認。
- 3) 第 146 回総会議案について
進行を確認。

会則改正後、現「名誉会員」に説明のための連絡をすることとする。

会費のクレジットカード払い導入手続の確認。

4) 各種委員会報告・審議

①学会誌編集委員会

資料あり。編集委員会副委員長の増員について。査読専門委員について。その他の懸案事項について問題提起があった。継続して検討する方針とする。

②春季大会企画委員会

③秋季大会企画委員会

147 回大会の準備の進捗状況報告。

大会報告フルペーパーの質の向上を計りたい。

④広報委員会

⑤国際交流委員会

国際会議の助成について、一名について継続して対応を検討する。

⑥社会政策関連学会協議会

⑦日本経済学会連合

5) 各担当報告・審議

①若手研究者支援担当

146 回大会では懇親会に 4 名招待、旅費補助の申請はなし。

若手優秀賞審査経過と結果について、小尾副委員長から報告。

②大会調整担当

③地方部会活性化担当

④専門部会活性化担当

⑤学会誌刊行形態最適化担当

6) 選挙管理委員会の構成について

代表幹事より委嘱方針と途中経過について報告。

7) 次回幹事会の日程

8) その他

大会企画と学会誌編集の業務連携についてディスカッション。

開催校から、今次大会の事前登録 233 名、懇親会 110 名で 1 会場。(熊沢 透)

第 8 回幹事会

日時：2023 年 7 月 21 日(金) 19 時

会場 オンライン

議事録

出席：禹宗杭・阿部彩・石井まこと・伊藤大一・岩永

理恵・小尾晴美・垣田裕介・上村泰裕・金成垣・白瀬由美香・菅沼隆・田中聡子・田中弘美・所道彦・引馬知子・藤原千沙・水野有香・百瀬優・森詩恵・森周子・山村りつ・熊沢透(記)

欠席：金井郁・金子良事・禿あや美・首藤若菜・栞田大知彦・松本伊智朗

議題

1) 百瀬幹事への学会誌副編集長の依頼、就任について。了とし、次期幹事会準備会に人事上の配慮を申し出る方針とする。

関わって、幹事会選挙にあたっての推薦に際して、特定のポストへの就任を想定して推薦することには批判があるという理解が共有された。

現(編集委員会)規程は、「副委員長は一人」と定めていると解釈すべきかについて、幹事会判断として複数とすることは規程には反しないという理解が共有された。

2) 編集委員会から、15巻2号について進捗報告があった。

業務分担について、1)での確認を承け、業務内容の精査の必要性の認識が共有された。

・小特集の廃止の提案。少なくとも依頼はしない、という提案。これについては小特集の意義もあって慎重意見があったが、小特集は持ち込みがあれば、質が担保されている条件の下で、掲載するという意見があった。小特集の扱いについては引き続き検討することとした。

・投稿の締切時期をずらす(現行はお盆休みや年度末に重なっている)ことが検討された。

・プレプリントを活用しながら現状「3号」のコンテンツを、「4号」に区切り、冊子体は2号ずつ合冊にするなどの公開形態についての検討・提案は編集委員会で行えるかどうかの照会があった。

るなどの公開形態についての検討・提案は編集委員会で行えるかどうかの照会があった。

・査読専門委員の制度を廃止するという提案について検討することとなった。

・企画委員会が共通論題、(残すのであれば)分科会=小特集、書評について原稿提出に責任をもつという方式について検討された。

・編集委員会独自企画の書評はやめる。

3) 新入会員/退会の確認

6名の新入会員が承認された。また、2名の会員区分の変更(一般会員から割引会員へ)が承認された。

4) 同意された永年会員を被選挙人名簿から外すことについて

7月31日までに永年会員となることを同意した人は秋の大会を待たずに被選挙人名簿から外すこととした。

5) 会則・規程類の改正、申合せの制定について

・専門部会規程第2、3、4、5、7条改正。第8~11条新設。専門部会活動のガイドラインを作成することとする。

・会員区分と大会参加費に関する申し合わせ：若干の文言修正ののち了解することとした。

6) オンライン入会システムについて：導入することとした。

7) 各委員会から

以下の諸点について説明と報告があった。

・春季大会企画委員会：共通論題テーマ案。

・秋季大会企画委員会：テーマ別分科会、自由論題の申請承認。一部条件付き承認。発表申込における扱いについて。開催校との打合せについて。

・国際交流委員会：国際学会報告助成に関する報告。

・若手研究者支援担当：修論フォーラム報告。参加申込67名。若手研究者優秀賞の選考日程案。若手研究者旅費補助・懇親会招待について。

8) 次回幹事会は2023年10月6日(金)13時、立命館大学衣笠キャンパスで対面開催とする。(熊沢 透)

6. 承認された新入会員

2023年7月21日幹事会承認(6名)

川村 顕	早稲田大学人間科学学術院	労使関係・労働経済/社会保障・社会福祉/生活・家族
古賀勇人	マンチェスター大学環境教育開発学部地理学科	社会保障・社会福祉/その他
西尾 功	日鉄鋼板労働組合	労使関係・労働経済/社会保障・社会福祉/労働史・労働運動史/生活・家族/その他
渡辺宏彰	立命館大学国際関係学部	労使関係/社会保障/ その他:比較労働政治・政策、比較・国際政治経済学
加藤穂高	福島大学教育推進機構	社会保障・社会福祉
片山ゆき	株式会社ニッセイ基礎研究所保険研究部	社会保障・社会福祉